

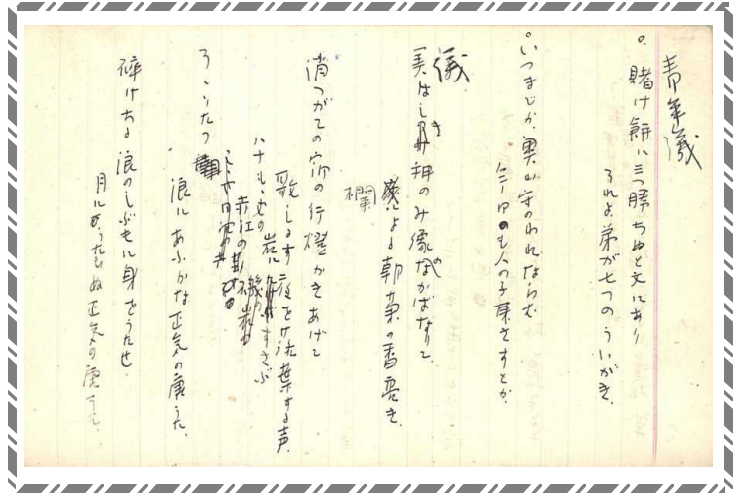
# 文学館だより

令和 7年 3月 1日  
 若山 牧水 記念文学館  
 TEL 0982 - 68 - 9511  
 文 貴 日 高 第107号

## 企画展『文学ノート拝見』 必見です 3月1日～30日

牧水が延岡中学校時代に携帯していたであろう1冊のノートが残っています。このノートには270首を超える短歌ほかの作品が書き留められています。目を見張るのは、推敲の跡を残しているところ。幾度も推敲を重ねている箇所も見られます。さらには全集に収録されていない作品もあり必見です。

今回、ノート全ページを公開するほか、ノート現物も展示します。歌人若山牧水の原点とも言える延岡中学校時代を覗いてみませんか。



### 企画展 『文学ノート』 拝見

会 期 令和7年3月1日(土)～3月30日(日)  
 会 場 若山牧水記念文学館企画展示室  
 休館日 3月3日(月) 10日(月) 17日(月) 24日(月)

## 大辻隆弘さん、高山邦男さん 坪谷へようこそ

第29回若山牧水賞授賞式ならびに受賞祝賀会が1月30日(木)に開催されました。今回の受賞者である大辻隆弘さん、高山邦男さん、おめでとうございます。翌31日(金)は、お二人を坪谷にお迎えして牧水生家と文学館を見学いただきました。



### 大辻さんは牧水と誕生日が同じ?!

三重県出身、未来短歌会理事長を務める大辻隆弘さん(写真右)の誕生日は戸籍上は8月25日ですが、生まれたのは前日24日だそうです。夜に生まれたので翌日の日付で届けをされたらしく、間違いなく牧水と同じ8月24日生まれでした。

### 高山さんは東京牧水会会員!!

東京都出身、心の花編集委員を務める高山邦男さん(写真左)は東京牧水会会員でいらっしゃいました。東京牧水会は私ども日向若山牧水顕彰会と同様、全国牧水顕彰会に所属する一団体です。牧水のこと、東京牧水会のこと、お話をいただきました。



〔牧水公園〕



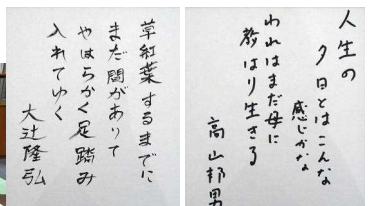
〔牧水生家2階〕



〔文学館展示室〕



〔受賞歌集にサインと色紙浄書〕



## 歌い継がれる牧水

仕事から多くの短歌に出会います。「牧水」と歌われていれば、つい読み返してしまいます。

あくがれとふ日向のお酒にほろ酔ひて心いつしか牧水の気分

第1回青の國若山牧水短歌大会入賞 牛ノ濱 桂風

また今日も夫は酒飲みくだを巻くキメの一言「牧水を呼べ」

第4回青の國若山牧水短歌大会入賞 木内 美由紀

尾鈴山の作文ほめて担任は教へくれたり牧水の歌

第8回青の國若山牧水短歌大会入賞 大賀 康男

牧水と海のある街、あなたにも花丸つけて婚を決めたり

第11回青の國若山牧水短歌大会入賞 日高 尚子

字はたい体を表すと思ふ牧水はまるくやはらか満月のやう

第14回青の國若山牧水短歌大会入賞 片伯部りつ子

牧水の歩く速さを思ひつつたぶんそれよりゆつくり歩く

大口 玲子

牧水のしゃしんのしたに牧水のばいほどいきたるからだをはこぶ

佐佐木幸綱

ウイルスも〈自然〉なんだよ、と言うだろう牧水ならば海をながめて

吉川 宏志

やまひ病重き昭和三年の作にすら死のうた一首あらぬ牧水

伊藤 一彦

紹介しきれなかった方々、どうぞお許してください。  
「牧水先生が詠んだ歌」はいつも引いていますが、  
このように「牧水を詠んだ歌」も多く目にします。  
「牧水を詠んだ歌」企画展もおもしろいかもしれませんね。



ただし

## 訃報 塩月 眞氏 これまで大変お世話になりました

若山牧水延岡顕彰会元会長、相談役塩月 眞さんがご逝去されました。牧水祭に毎年お越しください、朗詠をご披露いただきました。昨年の牧水祭にも母のうた「日向の国むら立つ山の」と酒のうた「人の世にたのしみ多し」をご披露いただきました。また塩月さんは東郷出身というご縁も重なり私たちにとってとても近い存在でありました。これまで大変お世話になりました。

## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

人の世にたのしみ多し然れども酒なしにしてなにのたのしみ

ひとのよに たのしみおおし しかれども さけなしにして なにのたのしみ

「牧水と言えば酒でございます。私も牧水のために酒を飲むようになった（会場からの笑い声）  
……酒の歌を一首歌わせていただきます。」と言い、昨年の牧水祭「牧水を偲ぶ会」にて朗詠を披露された塩月 眞氏。牧水を愛して止まない塩月氏が選んだ最後の一首がこの歌であった。

来たる令和7年度は若山牧水生誕140年、若山牧水記念文学館開館20年目を迎えます。牧水先生の偉業については言うまでもありませんが、誕生から幼少期を過ごした坪谷時代、若山牧水記念館開設から文学館20年の歴史を後世へ残していくことは私ども生誕地の務めだと思っています。記念の年を盛り上げていきます。みなさまのご支援ご協力をお願いいたします。